

週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月22日(木)

《罪は誰でも犯すもの ～反省と、よい心のための努力を～》

今日の福音(ルカ 9・7-9)を読んで、いつか読んだ物語を思い出しました。

古代のアメリカインディアンは、壁画に、子どもの心は三角形、大人の心は丸の形に描いていたそうです。子どもの心は三角形で、^{かど}角があります。もし罪を犯したら、その罪によって角が擦り減り、その時、痛みを感じるのだそうです。だから罪を犯すと、心が「痛い、痛い」と感じます。しかし、これを繰り返して大人になると、擦り減るところのない、まん丸な心になり、痛みを全然感じなくなります。

これは、結構知恵のある描き方です。よく考えてみれば、私たちにも「昔はこんな人間ではなかった。」と思う時があると思います。私もそう思うことがあります。やはり私たちも、気づかないうちに、痛みを感じるべきものに痛みを感じない成人になったのかもしれない。

今日の福音のヘロデにも、幼い頃はあったのでしょうか。その時、彼の心がどのような形であったのかは分かりません。しかしおそらく、花を見て美しさを感じ、可哀そうな人、気の毒な人を見て心を痛めた時代もあったのでしょうか。つまり、全ての人間、私たちが悪人と呼ぶ人も、子どもの頃には本当に純粋な心があったと思います。しかし、時間の流れと主にいろいろな事が重なり、いつの間にか鈍くなってしまった心を私たちはみんな持っているのでしょうか。

今日の福音を読んで私が考えたのは、「罪というものは、誰でも犯すもの」ということです。大事なことは、罪を犯した後、振り返って、反省する心があるかどうかです。それによって、その人が正しい道を歩んでいるか、正しくない道を歩んでいるかが、決まるのだと思います。

私たちには、神様が下さった初めの心、きれいな心、清い心を取り戻すことは出来ないかもしれません。しかし、今の心をもっときれいに、敏感に、善い心に耕そうとする心が必要ではないかと思いました。

ありがとうございました。